

令和6年度熊本県立大学環境共生学部入学者一般選抜における
出題ミスの発生について

このたび、令和6年3月に実施した令和6年度入学者一般選抜（後期日程）の個別学力検査において、環境共生学部環境共生学科環境資源学専攻の理科（物理）の問題に出題ミスがあったことが判明しました。また、これに伴い1名の追加合格が生じたので、次のとおりご報告させていただきます。

本学を受験された皆様をはじめ、御家族並びに関係者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしましたことを、心からお詫び申し上げます。影響のあった受験者の方には真摯に対応させていただきます。

今回の事態を厳粛に受け止め、深く反省するとともに、このようなミスが二度と発生しないよう、再発防止に全力で取り組んでまいります。

1 出題ミスのあった選抜及び科目

- ・一般選抜（後期日程） 環境共生学部環境共生学科環境資源学専攻
- ・募集定員：12名
- ・選抜実施期日：令和6年3月12日（火）
- ・合格発表日：令和6年3月20日（水）
- ・出題ミスのあった科目：理科「物理」 *受験者は物理、生物、化学のうち1科目を選択
- ・物理の受験者：13名 *環境資源学専攻全体での理科の受験者50名

2 出題ミスの概要

- ・「物理」の問題Ⅲの問4において、問題文中の条件設定が誤っていたため、正しい解答を導けない設問となっていた。（別紙を参照）

3 出題ミスが判明した経緯

- ・令和6年8月8日、外部から、環境共生学部の一般選抜の理科（物理）に出題した小問3問に対する問い合わせがあった。これを受けて、学長、副学長、学部長及び問題作成者等により検討を進めた結果、問い合わせのあった3問のうち1問が正しい回答を導けない出題ミスであることが判明し、8月26日に同学部の教授会で最終確認した。

4 出題ミス及び受験者への対応について

- ・出題ミスのあった問題については、当該問題の受験者全員を正解にする扱いとした。
- ・その後、物理受験者全員の答案を再確認、採点をやり直した上で、9月9日、学内会議で当該選抜の合否判定を改めて行い、受験者1名を新たに合格者とした。
- ・追加合格者に対しては、同日直ちに連絡し、お詫び申し上げた。現在、本学に入学されるかどうかについて意向を確認中である。
- ・本学としては、追加合格となった受験者の立場に立って、本学で対応できる善後策を検討し、誠心誠意対応していく。

5 再発防止に向けて

(1) 課題

- ・これまでも出題ミス防止に向けて、問題の作成、校正及び試験終了後の採点等の各段階において、出題者及び点検者による点検・確認作業を複数回にわたり行ってきた。しかしながら、本事案では、当該作業における設定条件や計算確認の過程において間違いに気づくことができず、ミスの発見に至らなかった。

(2) 再発防止策

- ・今回の出題ミスの発生を受けて、次のとおり点検・確認体制の見直し・強化を図ることにより、より実効性の高い体制に改善し、再発防止に努める。
 - ①出題者や点検者以外の者によって問題をより客観的に点検する。
 - ②上記①に加えて、入学試験実施直後にも、問題作成時とは異なる第三者による検証を実施するなど、多角的な検証の仕組みを検討する。
 - ③これまでの問題点検・確認体制が有効に機能していなかったとの反省に立ち、改めて出題者及び点検者のチェック表を見直し、それぞれの役割・責任をより一層明確化するとともに、スケジュール・進捗状況の相互確認及び情報共有を強化する。

(問合せ先)

熊本県立大学 事務局

教務入試課 堀口、山村

Tel 096-321-6610

別紙 出題ミスの内容

問題Ⅲ 次の文章を読んで、以下の問1～問4に答えなさい。

図2のように、高さ H [m] の点 P1 から物体 A が投射された。物体 B は水平床にある点 P2 から同時に投射された。物体 B の投射点 P2 は、物体 A が最高点に到達する点 P3 の真下である。物体 B は物体 A が最高点に到達する瞬間に物体 A と点 P3 で衝突した。このときの高さは水平床まで $2H$ [m] である。

物体 A の投射時の初速度は v_0 [m/s]、仰角は θ 、物体 B の投射時の仰角は 90° である。水平床を基準水平面、水平方向を X、鉛直方向を Y、重力加速度を g [m/s²] とする。

問1 物体 A が最高点 P3 に到達する時間 T [s] と、点 P3 から水平床までの鉛直距離 $2H$ を、 v_0 を用いてそれぞれ求めなさい。

問2 物体 B の初速度 V [m/s] と物体 A に衝突する直前の速度 V' [m/s] を、 v_0 を用いてそれぞれ求めなさい。

問3 物体 A と物体 B が衝突した後、両物体は一体となって運動を続けた。物体 A の質量を m [kg]、物体 B の質量を M [kg] とする。衝突直後の物体の水平方向成分 V_x [m/s]、鉛直方向成分 V_y [m/s] を、 v_0 を用いてそれぞれ求めなさい。

問4 $m = 1$ kg, $\theta = 45^\circ$, $v_0 = 100$ m/s のとき、衝突直後の物体が、衝突直後から水平床に到達するまでの時間は $t = 15$ s であった。このときの物体 B の質量 M を小数第2位まで求めなさい。なお、解答に当たっては、 $\sqrt{2} = 1.414$, $\sqrt{3} = 1.732$, $\sqrt{5} = 2.236$ 、重力加速度 $g = 9.8$ m/s² を用いるものとする。

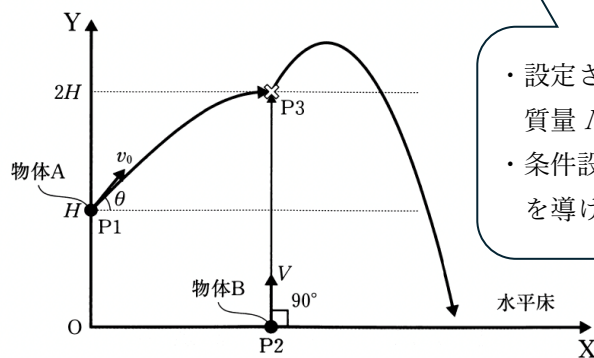


図2

- ・設定された条件で計算すると、質量 M が負の値になってしまう。
- ・条件設定が不適切で、正しい解答を導けない。

学長コメント

このたび、令和6年3月に実施した入学者一般選抜において、出題ミス及び1名の追加合格という重大な事案を引き起こしました。

今回の出題ミスは、厳正・確実であるべき入学試験、ひいては本学に対する信頼を損なうものであり、受験された皆様をはじめ、御家族並びに関係者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしましたことを、心からお詫び申し上げます。

本学では、追加合格となりました受験者の方に対しては、御本人の意向を尊重し、誠心誠意対応していく所存です。

今回の事態を厳粛に受け止め、深く反省するとともに、今後このようなことを起こさないよう、全学を挙げて再発防止に取り組み、信頼回復に努めて参ります。

令和6年（2024年）9月13日

熊本県立大学

学長 堤 裕昭